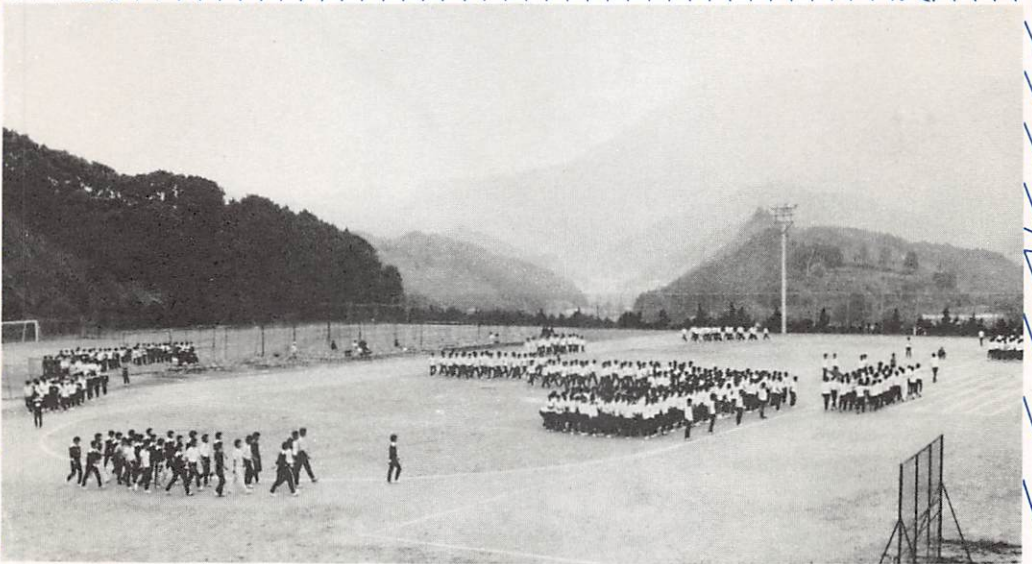


第5号  
1980

会報

# にしきうら



高知県立須崎工業高等学校同窓会

# 目 次

ごあいさつ	校 長 西 村 博	1
ごあいさつ	前 校 長 大 畠 正 賢	2
同窓会の皆さんへ	同窓会長 清 家 寛	2
学校近況	教 頭 久 正 一	3
寄 稿	元 教 諭 大 田 幸 吉	4
会員の皆様にお願	事 務 局	5

## 支部だより

須 崎 支 部	松 本 興 雄	6
京 滋 支 部	広 瀬 理	7
関 東 支 部	田 所 定 夫	9・10
高 知 支 部	岡 林 幸 保	11

## 母校だより

ヨ ッ ト 部	森 沢 徹 男	12
野 球 部	西 森 昌 身	13
事務局だより	島 崎 良 一	14
昭和54年度決算報告書		15
昭和55年度予算		16
本年度事業中間報告		17
各種証明書の発行について		17
編 集 後 記		17
追 悼		18
終身会費納入者名		19・20・21・22

# ご挨拶

校長 西村 博



このたび四月一日付の異動により前校長大嶋正賢先生の高知工業高等学校長転出に伴い清水高等学校長より本校に着任いたしますことになりました。

もとより非力非才でありますが四十年の歴史ある須崎工業高校の輝かしい伝統をけがさないよう第二代校長として努力いたす覚悟であります。

着任早々清家同窓会長を中心とした同窓会の役員会、事務局会に参加させて頂き、この五月には東京支部総会、八月には第二期生を中心とする「礼会」が須崎市に於て開催されました。

それぞれの会に参加させて頂き感じましたことは、同窓会の皆様が各地で益々ご健勝にてご活躍を承知しまして誠に心強く感じました次第であります。

皆さんの母校たる須崎工業高校の発展に対する熱情と期待、ご厚情に対し責任の重大さを痛感いたしました。

私は同窓会に参加させて頂きご挨拶申し上げるときいつも申す言葉であります、人生はめぐり合い、言葉を替えていえば出会によって幸福を得、またこ

の出会いによって貧弱な自分が育てられ、どれだけ生きる喜びを教えられるかわかりません。

学校はこのよき友とのめぐりあいの場であります。須崎工業高校同窓会もまた、よき友のめぐり逢いによって結ばれ、育てられていくものでありましよう、このめぐりあい、出会をいつまでも大切にすると同窓生であつて欲しいと思います。

さて最近の工業高校をとりまく問題として、須崎工業高校だけでなく、全国的に見まして時代の変化を感じさせられます。

工業高校の教育は望ましい職業観と勤労観を育生し調和のとれた人間形成を図ることを目的としたもので、生徒にとって将来の職業生活の基礎を築くものであります。

しかし乍ら最近の父母、生徒の強い普通科高校への優先志向、中学校卒業生の九五%の進学により、入学する生徒の能力・適性・学習意欲の変化、目的意識の不明確さ、さらには大学進学志望者の増加など、工業高校をとりまく環境は著るしく変化し、所期の目的を達成するため、解決すべき問題を生じているのであります。

皆さんがこの須崎工業高校を巣立ってから須崎工

業高校も年々変わってきているわけです。

外見が時代の推移と共に変化していくことは避けられないとしても内面的なもの、精神的なものについては変わってはならないものであります。

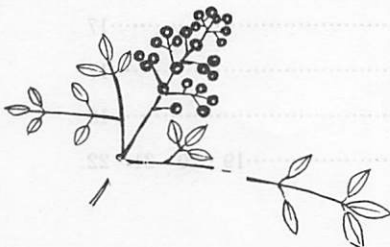
本校の伝統である「勤勉」「規律」「友愛」の精神は時代にずればあつてもこの須崎工業に学んだ全員の業績であり、現在の在校生はこの伝統の中に生きています。

卒業生も五千百三十七名を超えまさに隆盛期にさしかかっています。

今後も質・量の向上をめざして発展していくことと思ひます。

どうぞ卒業生の皆さんの母校である須崎工業高校に対して、かわらぬ暖かい関心を寄せて頂きたいと思ひます。

最後に皆さんのご健康とご多幸を祈つてご挨拶にかえさせていただきます。



# ご挨拶

前校長 大畠 正 賢

去る四月一日付をもちまして、高知工業に配置換えを命ぜられました。

ふり返ってみますと、昭和五十三年四月、十一代校長として着任以来、僅か二年の短期間でございましたが、その間、清家会長をはじめ同窓会事務局ならびに、各支部のみなさん方にも大変なご協力、ご鞭撻をいただきましてお陰様で大過なく重責を果すことができました。厚くお礼申しあげます。

最近の中学生の進学傾向が普通科志向の中で、在学生徒数の減少はほんとに淋しいことでしたが、開校以来四十年に近い長い伝統と卒業生各位の輝かしい活躍振りに「須工」独特の風格の重さをいつも肌感じておりました。

二年間とはいえ、プール落成・中庭の花壇・屋上の大看板・通学道の桜並木・野球部復活・ヨット部新設等は私のこれからの人生に、何かにつけよい思い出として、よみがえってくると思えます。これも須工を愛し、もり立てていただいている多数のみなさん方のご協力のおかげだと感謝いたしております。

須工同窓会のみなさん方の充実、発展と会員各位の一層のご健勝とご活躍を祈りまして、ご挨拶いたします。

# 同窓会の皆さんへ

同窓会長 清家 寛

会員の皆さんお変わりありませんか。お陰さまで同窓会も年毎に発展しております。

去る六月十四日の理事会に於きまして、昭和五十六年度は母校で総会を開催することに決定しました。理由は母校も大きく発展し、多の郷和佐田ヶ丘に移転新築され、内容も一段と良くなったその姿を、一度見たいという会員の声が、各地にあることと、母校の諸先生方からもぜひ同窓の皆さんに新らしい母校を見てほしいという要請があったからであります。

そこで移転新築以来第二回目の総会を、下記の通り開催することになりました。

会員の皆さんには、それぞれご多用のことと思いますが、同期生や友人・職場の同窓或はお知合いの方々誘い合って、何卒ご出席下さい。

久しぶりに一同が母校へ集って、先輩・後輩の世代を忘れて、同窓生として共に母校に親しみましょう。そして現職の先生方や、昔の恩師の諸先生方にもお越しいただいて、大いに旧交を暖め、また新しい睦交を交し合うと共に、在りし昔に返ってお互いに楽しい一ときを過しましょう。そしてお互いに未来への活力を養いたいと思えます。

会員の皆さん、久々の総会に是非共ご出席下さい。

役員一同を代表し、本紙上を借りてご案内申し上げます。

昭和五十五年十月吉日

## 同窓会総会のご案内

日時 昭和56年8月9日(日)午後2時  
場所 母校 体育館  
行事 予定

- ① 母校各科ご案内 午後1時～2時
  - ② 協議懇談 午後2時～4時
  - ③ 懇親宴 午後4時～6時
- 会費 三、〇〇〇円(当日ご持参下さい)

お願い!

- ① 万障繰合せ全員ご出席下さい。
- ② まだ先のことですが、出欠の返事は56年7月20日頃までに下さい。

昭和五十五年十月吉日

同窓会長 清家 寛

会員各位殿

# 学校近況

教頭久正一

新校舎に移転して既に九年の歳月が流れ、グラウンドの北側に防風用として植えた珊瑚樹も次第に伸びて赤い実をつけて成長し、庭園には目にしみるように芝生の緑が拡がり、花壇には春には色とりどりのチューリップが花開き今コスモスの花が秋を告げて、

白亜の校舎と四囲の樹木との調和もしくりと、まことに清々しい落着いた学園となってきました。昨年九月十四日午後の校内水泳大会ではプールサイドで全員声援する中で各クラスの選手は張切って力泳し河童ぶりを発揮しました。十八日の郡体ではバレーボール部、ソフトボール部、バトミントン部が優勝し、陸上部、軟式庭球部、サッカー部も健闘しました。修学旅行は二年生が九月二十八日から十月三日まで五泊六日の日程で信州コースを旅行しました

が台風の影響で高知発特急フェリーが欠航となった為、急提愛媛県東予港に廻りオレンシラインで大阪南港に着き、近鉄観光バスで中央高速道路を通り、霧ヶ峯、白樺湖(泊)、白根山、中禅寺湖(泊)、夜中台風一過し華嚴の滝、東照宮、海洋会館泊、東京都内見物を済まして東九オーシャンフェリーで徳島着、県交通バスで全員無事帰校したが、台風を追

いかけられた旅行でした。十一月二日には校内陸上大会が秋晴れの下で行なわれましたが、例年と少し趣向を変えて、M.A、M.B、S、C、E.A、E.Bの六組に分け色違いの団旗の下で鉢巻をしめて競技に出場し、各種目毎に採点をして優勝を競うようにしました。そしてむかで競走、くじ引競走、パン食い競走、綱引き等余興のゲームも組入れて応援合戦も活発に行なわれ、若人のエネルギーを全員発散した楽しい大会となりました。丁度この日に秋季四国高校野球高知大会で本校野球部の公式戦初試合として出場しましたが一回戦で強豪明德に17-0でコールド負けを喫しましたが生れたばかりのひよこでは無理はなかつたと思います。

三月一日には昭和五十四年度卒業生一八五名が巣立ってゆきました。機械科七四名、造船科一九名、化学工業科二五名、電気科六七名で卒業生総数は五四四七名となりました。

次に三月末の教職員の人事異動では、大島正賢校長が任期二ヶ年でしたが高知工業高校々長にご栄転になり、後任として清水高校々長西村博先生が十二代校長としてご着任になりました。転退職、着任された諸先生を紹介しておきます。

転任	着任
竹内良雄(機) 退職	吉岡鏡友(機) 宿毛工
安芸 融英(英) 高知工	前田孝親(英) 宿毛工
宮尾治二(電) 高知東工	川瀬卿有(電) 高知工(定)
横江忠志(体) 佐川(定)	金子信昭(体) 中村養護
山口元徳(数) 小筑紫	川村文化美(数) 期講
今西利恵(国) 時講	竹内良雄(機) 時講

四月七日には昭和五十五年入学式が行なわれ、新任の西村校長の訓辞を受け機械科八〇名、造船科一九名、化学工業科二九名、電気科七九名、計二〇七名の新入生を迎えましたが昨年より減少したことは淋しいことです。五月二四日、二五日の県体では各部とも健闘しましたが、その中で軟式庭球で二組陸上部の砲丸投げで二名、バドミントンが団体で上位進出を果し四国大会への出場権を獲得したことは嬉しいことでした。然し伝統の相撲部が選手不足のため団体戦に出場できなくなったことは、誠に残念なことです。野球部は東工と対戦し9-2と敗れましたが最後まで健闘しました。七月二十四日甲子園をかけた全国高校野球選手権大会高知大会では初勝利を念願に全員善戦しましたが小津高に4-2と惜しくも敗れ去り一勝の壁の厚みを感じました。捲土重来を期してこの夏休みも合宿もして頑張っています。

波静かなる錦浦、野見湾の最速の立地条件を生かして、理科の森沢徹男先生がヨットの同好会を作り生徒も十名位で活動を始めました。ヨット連盟からFRP製のY15型と木造スナイプ型のヨット二隻を借り船溜りに係船して整備し、白帆に風を受けてセーリングの練習に励んでいます。県下では他校にならぬので四国大会に出場したいと張切っています。今年十一月十六日(日)に第十二回文化祭を開催するよう準備をしています。その時は御来校を待っています。来年度は開校四十周年、新校舎移転十周年の年となります。同窓生諸氏のご活躍をお祈りします。

寄稿

# 創立のころども

(須工元教諭)

大田 幸吉

須工に御世話になったのは、前後たしか二回、同じ学校に二度も巡り逢うという、これもきつと何かの御縁だったかと思う。

最初は戦時で、然かも、真珠湾攻撃という、緊急報道を、出勤途上に聴き、震え上った当時の事だっただけ、忘れられない。私は前任校が、熊本の女子高、然かも若い国語教師、それが一転して、戦時での工業高え、かてて加えて教頭という、全くもって思いもかけない人事で、正直いって面喰うと言ってもいいところ、無我夢中の毎日であったことは言うまでもない。その頃、既に御年配であられた青木事務長など、側でつぶさにその醜態を観察されていられたかと思うと、今だに顔が赤くなる想いがする。

初代中内校長や田村隆徳先生等の御辛勞の程は、大変だった様に思う。一種生、二種生の別なく、このことは深く肝に銘じて頂き度い。当時の事だから、施設、設備から職員構成に至るまで、何から何まで、間に合わせと言う異状づくめで、戦後の生徒諸子に到底想像も出来ない様な学園風景であった。須崎高等小学校の間借り教室から、糺の新校舎に移転していった当時の事ども、新校舎の整地工事に、抜根機と呼ばれた手動機で、一株、一株桑の根っ子を掘り起して行ったことなど今も想い出されるし、町内隣

組の方達に輪番で、労力奉仕して頂いたことや、果ては天理教の日の奇進まで頂いた事等々、随分と地元の方々にも御世話になった。現在、多の郷にあの偉容を誇る今の校舎完成にまでには、職員生徒一同の心血を注いだ御活躍があったことと、創立当時の事を知っているだけ、それだけその間の御苦勞が偲ばれます。直接責任を持つ行政機関の方々はじめ地元出身の政界人等々、今日の須崎工業高校実現の爲めには、直接、間接に随分と色々の方達の御支援があったればこそと思います。倅にして創立当初から生徒諸子がとても真面目だった様に思います。今後とも自重して頂き度い。



# 会員の皆様にお願ひ!!

平素は会の運営に御協力下さって有難うございます。お蔭さまで同窓会も次第に発展しております。さて勝手を申しますが、会の充実と末永い発展のため、次の件について格別のご協力下さるようお願いいたします。

- (1) 終身会費の納入にご協力下さい。(未納の方) 会費は年会費五百円と終身会費一万円の二種類ありますが、次の理由からなるべく終身会費の納入にご協力下さい。
  - ① 年会費は気楽なようですが、手間が大変で、集金が困難です。
  - ② 終身会費は一回の納入で済みますので、会員の方も本部も共に手間が省け、会の発展に大きく貢献します。
  - ③ 終身会費は別途会計として積立て、その利息を運営費に当てることになっていきますので、会の基金が出来る上に、運営も計画的にできることとなります。終身会費の払い込みは、一ヶ年以内の分割払いでも結構ですのでご協力下さるようお願いいたします。

❖ 送金については次の方法をご利用下さい。

(現金送り先)

千七八五 須崎市多の郷和佐田

須崎工業高校同窓会

(郵便振替の場合)

口座番号 徳島 一三五七

加入者名 須崎市多の郷和佐田

高知県立須崎工業高校同窓会

(2) 勤務先や住所が変わったら知らせて下さい。

① 会報を毎年お送りします。住所変更の連絡がないと、折角送ったものが返送になります。

② 五年に一回名簿を発行する予定ですが、名簿の整備は大変な手間と労力を要するので、常に訂正してゆきたいと思えます。

(3) 支部総会や社内あるいはクラスの同窓会等にはつとめて参加して下さい。

思はぬ身近に友人や知人の居るものです。

また仕事上のことや、その他何かにつけて得るところも多いと思えます。

総会や社内あるいはクラスの会合等は親睦を深める場でもあります。つとめて参加して下さい。

同窓会長 清家 寛  
事務局長 島崎 良 一

# 須崎支部だより

## 礼会のこと 松本興雄

(昭20年3月機卒)

「あれから三十五年」それはストレートに卒業していたら話。昭和十七年四月私達は真面に入学しました。礼町の母校には機械工場一棟とセメント練瓦の塀と門がありました。機械工場の南半分を板で仕切って二教室が出来ていました。校舎は建築中で骨ばかり、校庭も埋立てば学校の回りは桑畑ばかり入学してから追々入荷する機械を棧橋まで生徒が車を曳いて取りに行き、庭木や国旗竿など運びに行きました。実習といえは機械の基礎やシャフトの釣り揚げなど、又グランドの埋立の手伝い等忙しくて勉強どころではありませんでした。しかし勤労奉仕や学徒動員など、私共の時代ならではの貴重な体験でした。学徒動員は昭和十九年五月から昭和二十年三月まで、曲りなりに卒業した者は五十円也の月給九ヶ月分で四百五十円戴きました。授業料や何とか費で一ヶ月の納入金七円二十銭だったと思います。二年と三ヶ月分一九四円四十銭(動員中は授業料はいりませんが兵長の月給二十二円四十銭、衣・食・住にパツタ付きでした。)

三年間学校に籍を置いて卒業証書貰って一九四四四十銭残った勘定になります。下宿代は今も同じ

と思いますが、通学は汽車の他は自転車か徒歩、買喰いしようにも店はなく教科書以外に雑誌など買おうにもありませんでした。その上積立て、あった修学旅行も出来ず卒業アルバムもありません。仲間も予科練などで入隊して途中から戦争へ行くなど、本当にまともに卒業式に残った者は、四十三名中三十名でした。その時の卒業写真も今年友人の持っているのと始めて対面した様な次第です。亦先生方もまともに三年間習った方も少なく、途中から来られた方、赤紙で出征した方等、学徒動員中でもあり、クラス会などで考古学的に当時の模様を発掘して行きます。そんな訳で梁山泊に集った四十三名と当時の先生方を特別会員として想い出の地、礼にちなんで礼会と名付け親交を深めて居りますが、本年の礼会を記念して無いものづくしの在校記念アルバムを今の卒業生と同じ表装(但し校章は昔の工の字の入ったもの)で、三十八年前から現在まで取り混ぜて完成しました。二代続く竹下写真館の主人がクラスメイトであればこそと感謝して居ります。遺跡を掘り起す様に昔の貴重な写真など出て来れば増頁をと考えて居ります。日本列島北から南から、遠くは韓国、台湾の友も時々訪ねてくれます。礼会も四年前、生

徒三十名、旧師十三名、今年の会、生徒三十一名、旧師十名で盛会でした。私達が須工で得た最大の宝は、数は少ないが、変らぬ御親交を続けて下さる先生方と年毎に深くなっていく交友でないかと考えます。





## 京滋支部だより

# 京滋支部発足について

広瀬 理

(昭21年機卒)

近畿支部は会員二〇〇名を越えるマンモス支部となり、人数的にもまた地区の広さ的にも支部としての運営が困難になってきたため、本年四月この支部を發展的に解散してあらたに大阪支部、京滋支部、兵庫支部、奈良支部、和歌山支部の五支部に分けて再出発することになりました。小生は京滋支部の世話人としてこの支部の発足の準備にたづさわらせていただくことになりました。

この間、二十九年造船科卒の田村武夫氏の御協力を得て準備にとりかかり、やっとこのほど支部発足の具体化が進みはじめたところです。会員名簿をひっくり返しながらか、この人はどんな人だったかな？あゝ、かくかくしかじかの人の筈だ……など、いづれも学生時代の童顔の面影とひき合わせながら名簿の頁をめぐるもまた楽しいものです。

現在京滋地区で名簿の集っているのは五十一年卒業生までで、総勢四十二名です。一番の先輩は二十九年卒、機械の片岡孝人氏であり、最年少の五十一年卒業組は電気の池田富男氏、中山泉氏、窪田司氏の

三人です。紅一点は四十年卒、化学の吉村弘子さんで京滋支部に異彩をはなってくれるものです。

学校を出て三十五年も経過すると昔の想い出も時々、事実とは違ったストーリーで憶え込んでいる時があります。青春時代に強烈に胸に焼きついたことが、自身の好むイメージにそって増幅されたり、修正されたりして記憶に残ってしまうせいかも知れない。ともあれ、苦しかったことも想い出となるころは、みんな楽しいものに変っていることは、「人生もまた楽しい」の感です。

先日前出の田村氏と京都駅で待ち合わせ、第一回京滋支部総会の段取り打合せを行い、十月下旬（十月二十六日の予定）で開催することになりました。それまでに支部長や諸幹事などの役員案、および会則案などを作ってゆく予定です。

なにしろ京滋支部もようやく胎動期をむかえたところであり、これからはひたすら関係諸兄の御助言御協力を得て一人前の支部に育ってゆきたいと願っています。どうぞよろしく。

## ゴルフの集い近畿に誕生 山越えて天狗よ来れ!!

郷里高知で愛好者によるゴルフコンペが盛況であるとの記事を当該で読みましたが、この度近畿地区でも有志による呼び掛けでこの春よりゴルフ同好者の集い「よさこい会」が誕生した。

旗上げを兼ねて第一回のコンペを四月十三日にスポーツ振興山之原コースで行った（写真）

先盟の手ほどきを受ける後盟や、又飛ばし屋、後盟に目を見る先盟など、和気あいあいのうちに楽しい一日を送りました。

第二回には田村武夫氏が見事ホールインワンを記録し会員より記念として、全会員名入りのカップを贈呈することになりました。そして十二番ホールには記念の植樹をしたことだった。

第三回は荒天で皆スコアーを崩す中で浜口博氏（四十年造船卒ハンディー二十三）が五アンダーをマークし一位となったが初参加のため規定によりおしくも二位となった。

又橋本盛幸氏（二十九年機械卒）はニヤピンホールで一五〇米を十センチ余につけ、前回の田村氏に続きあわや連続ホールインかと思わせ、グリーンで待つ先行組から大きなため息と拍手を受けました。

第四回は十一月十五日（土）滋賀県下、甲賀カントリークラブで八時三十分スタートで行うことになりました。

参加希望者は左記会長までどしどし申し込んで下さい。尚次回は参加出来なくても例会は年四回開催しますから入会希望の方はその旨申し込んで下さい。ばその都度案内状を発送致します。

年会費は事務連絡費として千円です。

役員は次の通りです。

会長 奥代重恭（二十四年機械卒）

千555

大阪市西淀川区佃三丁目二番二十六号

桂金属工業KK 電06-471-7712代

幹事 西田浩造（二十六年機械卒）

田村武夫（二十九年造船卒）

松村崇史（三十二年機械卒）

浜崎満良（四十年電通卒）

優勝者

第一回

奥代重恭氏 スポーツ振興山之原コース

第二回

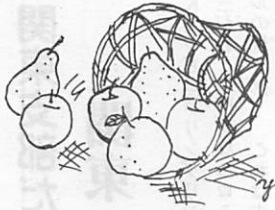
松村崇史氏 神有カントリークラブ

第三回

大崎光春氏 デイヤバークゴルフクラブ

第四回

甲賀カントリークラブ



## 新聞日日山

55. 8 31 (日)

# 8合目からSOS

## アマ無線活躍、米人救助

三十日朝、富士山八合目の山小屋で、米軍横田基地勤務の事務員ジョージ・マーチカスさんが「SOS」を受信したのは東大急病を起した。富士山の夏山架設電話は故障のため不通だったが、登山中のアマチュア無線家が「SOS」を発信、これが東京都大和市で受信され富士山田舎に連絡して、マーチカスさんは同日夕、

と吐き気で苦しんでいる。電話が不通で下界と連絡がとれないという内容だった。佐藤さんは、直ちに富士山田舎に通報した。同署は外動隊員五人を現地に派遣。同日屋敷ぎマーチカスさんを七合目の山小屋東洋館まで救助、待機していた米軍関係者に引き渡して、米軍救急車でキャンプ富士に

收容した。マーチカスさんは二十九日、女性を含む基地の仲間四人と登山、富士山ホテルに一泊して早朝山頂を目指したが、途中で激しい下痢と吐き気、微熱に襲われた。仲間三人は山頂に向かい、マーチカスさんは八合目で待機していたが、症状は回復しなかった。同署は過労から高山病にかかったものとみている。

夏の山小屋には、九月下旬まで五合目の交換所を通して電話が入っている。ところが二十九日、五合目の登山道工事の際、ラインを切断してしまい、三十日午後二時過ぎまで不通だった。

# 関東支部だより

## 関東の空の下で

関東支部 田所定夫

(昭20・3機卒)

NHKテレビ「プリンプリン物語」の人形制作者友永詔三がおくる清新なエロティシズムと夢幻的なシユールの世界!! これは去る八月中旬に東京日本橋高島屋で開催された友永詔三人形展「夢みる少女」のキャッチフレーズの一節である。

友永氏は昭和三十八年三月わが須工機械科を卒業、昭和四十二年オーストラリアの人形劇団のオーディションに世界中からただ一人合格、翌年渡豪し同劇団で活躍。帰国後、朝日新聞の主催する人形教室の講師等を含め、ひっぱりだこの人気を博してきた。二年以上続いている前記NHKの人形劇では、子供達やその家族にも人気が広がり、今やわが国でのこの世界に於ける第一人者といわれている。

この友永氏が、われわれ須工同窓会、関東支部の総会に顔を出してくれたのは、去る五月二十七日、日比谷東天紅に新任の西村校長をお迎へして開催した大会が初めてであった。

世界の文化の「増嶋」二つ東京近辺には、われわれ同窓生の中には、単に産業界のみならず、この人形の友永氏を含め、芸術・司法・行政・教育等、各界で活躍しておられる人々も多い。

勿論、産業界で活躍している同窓生が大多数であることは、他地区と同様であろうが、この分野だけでも随分と「窓口」は広いので、それらの同窓生同志でも、もっと気軽に会って語りあうチャンスが

あれば、ただ楽しいだけでなく、いろいろと有益なことが多いではなからうか。

今年五月の関東地区の同窓会総会は、お陰様でまあまあ盛會、好評であったと役員一同自負しているが、正直なところもっと多くの同窓生の集りを期待していた。また総会準備の舞台裏は、いつも年ら大変である。五百枚余の案内状を発送して、その半分近くは「受取人転居先不明」で返送されてくる。

いづれにしても残念なことである、もしも五百人を超す関東地区の同窓生が全員一堂に会することができたならば……いやせめてお互確実に連絡とりあえたらどんなに素晴らしいことか、それには何といつても先づ名簿の完備である。どうすればより確実な名簿の編集ができるか、なるべくお互頻りに会って情報の環を広げることも大切なこと、しかしこれもやはりメンバーに限られてしまう。

魅力のある同窓会になれば、情報も自ずと集まってくるだろう、そういう意味で、母校の野球部が、甲子園に出でくれたならばなあーと期待するのはかない夢だろうか!

趣味を利用して親睦の環を広げる方法はよく利用されているがこれも多種多様でとても一堂にまとめてという訳にはいかないだろう。趣味ということと最近話題になった同窓生のある出来事を紹介しよう!!

当地区在住の同窓生の一人 野瀬公介君は、支部の役員をお願いしているが、同君はアマチュア無線にこつている。先日職場の仲間達と富士山へ登山したが、水筒の代りに無線機を持って行く程のこり屋さん、ところがこれが思わぬところで「国際的」な人助けに役だち、テレビや新聞で報導されたものである。即ち富士登山中の米軍横田基地勤務のジョージ・マーチカスさんが、急病を起し苦しがつている、ところが夏山架設電話が故障で不通、この事態にそう遇した野瀬君は、持参した無線機で、緊急SOSを発信、このお陰でジョージさんは無事救助された(別紙記事ご参照)これなどは、電気科出身者らしいエピソードである。

いづれにしても各地区で同窓生の皆さんは、それぞれの分野でご活躍されていますが、尚一層のご活躍とご健康であらんことを願いつつ、関東地区からのレポートの一旦をお送りします。

### 友永詔三氏略歴

昭和十九年、高知県生まれの人形作家。四十二年、オーストラリアの人形劇団のオーディションに世界中からただ一人合格。四十三年、渡豪し同劇団で活躍。昭和五十年、人形アニメーション「くるみ割り人形」(サンリオ・フィルム)パイロット版の人形デザイン、制作を担当。五十一年、朝日カルチャーセンター「木彫人形講座」の講師を始める。五十二年、渋谷西武劇場にて「夏の夜の夢」の人形デザイン、制作を担当。五十四年、NHK連続テレビ人形劇「プリンプリン物語」の人形デザイン、制作を始める。五十五年、「プリンプリン物語」二年目に入る。

NHKテレビ『プリンプリン物語』の人形制作者、友永昭三がおくる、清新なエロティシズムと、夢幻的なシュールの世界!!

# 友永昭三 人形作品集

日本を代表する人形作家であり、NHKテレビ『プリンプリン物語』の人形制作でもおなじみの友永昭三の近作10余体を含む、代表作約70体を収録したいわば友永昭三の集大成ともいえる作品集です。

友永昭三の人形は ひざの関節はもとより手首の関節まで自由に動く精巧な技術で作られており、この球体関節によって人間と同じポーズをとれることが特徴となっています。また、友永昭三の人形は、すべて木が材料として使われており、自然の木目と木肌の美しさを充分いかしきることによって、他の人形作家には類を見ない独特の妖気と異次元的な世界を展開しています。

写真＝高橋 昇 この作品集では、そんな友永昭三の人形がこもした、生身の女性にはない清新なエロティシズムと、夢幻的なシュールの世界を、写真家、高橋昇が余すところなくとらえています。



# 高知支部だより

## 種崎須工会の近況

副支部長 岡 林 幸 保  
(昭28年造船卒)

同窓のみなさん、日々益々、ご健勝にて頑張って  
いられることとお喜び申し上げます。

会誌第一号にても紹介させていただきました種崎  
須工会の近況をお知らせしたいと思います。

高知市の表玄関とも言うべき高知港浦戸湾の入口  
の東側に位置するこゝ種崎は、海水浴場のある所と  
してでも有名であるが昔から造船業の盛んな所でも  
あった。造船所も高知重工、新山本造船、今井造船、  
永宝造船、大永造船、高知県造船(所在地は長浜で  
あったがS五五年企業中止)等々が隣接連立してお  
り、その関連企業も多数であった。

その造船業が昭和三十五年頃から、年々、時代の  
要請と、その波にのり、大きく発展し、二万トン、  
三万トン級の大型船舶の建造を手がけ、県下の企業  
の数ある中でも、輸出貢献企業としても注目されて  
いたものでした。

昭和五十一年末頃までは各社共に、活気にあふれ、  
そしてこれからの造船所及び関連企業に須工卒業生  
が数多く勤め、企業の中堅幹部、あるいは上級幹部  
として頑張っていたものでした。

ところが、昭和五十二年後半から押しよせて来た  
全国的な、造船不況の波をもろにかぶり、それを拂

いのけることが出来ず、遂に昭和五十二年九月、今  
井造船の倒産、明けて昭和五十三年の二月に、新山  
本造船の倒産という悲劇にみまわれ、各企業に勤め  
ていた須工同窓生も造船の職を失ない、多数の者が、  
新しい職に転職して行ったりして、百五十拾名程もい  
た同窓生も、今では八十名位となっているのである。  
昨年(五十四年)の後半から、県外の有力な造船  
企業の援助で、新山本造船も、今井造船も共に、仕  
事の出来る形になってゆきつつある現在である。

こうした状況の中で、しばらくの間、種崎須工会  
の親睦会も催してなかつたこともあり、「同一地区で  
起居し、また勤め働いておりながら、須工の出身で  
あるとか、先輩、後輩であるとか、またその名前も  
顔も知らんようではいかんのではないか」、「是非、須  
工会の復活の音頭を、とってほしい」という声が、  
有志の方からあがり、それではということ、不省  
私に幹事役となり、夫々の企業に勤める同窓生の中  
の先輩の方々に連絡をとったところ、早速の賛同を  
得たので、今年の六月二十一日に、高知市内つばき  
三階で親睦会を催した。

当日会社の都合などで出席出来なかつた者もあつ  
たが、それでも五十二名の同窓生(造船及びその関

連企業に勤めている者)が集って呉れまして、久方  
ぶりの親睦会が、楽しく、そして和やかに出来たよ  
うな次第でした。

夫々、勤める企業は違つてはいるけれども「助け  
合い、はげまし合つて行こう」と異口同音に話し合  
つているのが、あちこちの席から聞こえ、これでこ  
そ、同窓生の集いの意義があるのだと感じ、有意義  
な、ひとときであったと、幹事として、うれしく思  
つたものでした。

急な親睦会でもあつたし、また遠のいていたこと  
もあり幹事として、充分な手をつくすことが出来ず、  
母校からは、久教頭先生に、ご足労を願つたのと、  
同窓会活動に力を注いで下さっている、清家同窓会



会長、野中元教頭先生の、ご三人に出席していただいたにすぎなかったけれども、今後は、夫々、各教科担任の先生方にも、お越しを願って、母校とのつながりを深めて行き、種崎須工会が同窓会活動の一端に、少しでも役立てば、会としての意義もあるのではと考えております。

最後になりましたが、本会の生みの親とも言うべき、高知県造船の堀見正（昭和二十九年造船科卒）さんが所用にて出席してもらえなかったのが残念でした。  
それでは母校及び同窓会の益々のご発展を念じながら、種崎須工会の近況のお知らせとします。

## クラブ活動

# ヨット部

ヨット部顧問 森 沢 徹 男

卒業生の皆様、本年度ヨット部が誕生致しました。数年ほど前から一部の高校に高知県ヨット連盟より「ヨット部をつくらないか」との話がありました。ようやく本校で誕生のはこびとなりました。

現在ヨット部には練習用に二艇のヨットがあり、これらで帆走の基本と海上での心構えを中心とした練習をしております。以下に現在までの練習の様子と来年度の目標についてご報告致します。

最初は艇の各部と備品の名称及びロープの使い方から始めましたが、生徒にとっては未経験のことばかりで、ずいぶん戸惑いもあったようです。これらのことを充分に理解させた上で、五月から帆走の練習を始めました。狭くて揺れる艇の中で素早い動作を要求されるので、途方に暮れることもしばしばで

した。除々に慣れて、ほぼ正しい動作ができるようになった八月下旬から、生徒だけで帆走する練習にうつりました。最初は艇を思いどおりの方向に進ませることが難しく、目標と違う方向に進んだりすることもありました。練習を続けるうちに慣れて、最近では短いコースでのヨットレースもこなせるようになりました。しかし、強風になると艇の操作に四苦八苦するので、今年度は強風と大きな浪のなかでも短いコースのヨットレースができるよう、冬の強い季節風を経験させたいと考えております。

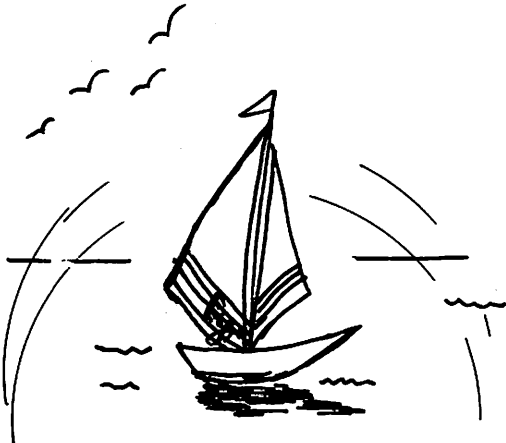
来年度は国体ヨット競技少年の部（九月）に本校ヨット部が出場できます。一九七九年度の日本ヨット連盟の規約改正で、新しく八一年度から少年の部（高校生の部）に各県から無条件で一高校が出場で

きるようになったからです。

出場できると決った以上は初出場であっても、上位入賞を目指して頑張りたいと考えております。そのためは、ヨットレースの戦術面と帆走技術の一層の向上が必要です。

来年度には、これらを中心にして練習するつもりです。戦術面では、様々な場合について図で説明し、それを実際に練習してみること、また帆走技術の面では、県内での連盟主催の公式レースに積極的に参加したり、現役の国体選手の方に指導を受けるなどし、効率よく帆走できる力を付けさせたいと考えております。

国体に出場できることは、沈滞ぎみの本校の生徒達にとって、ひとつの励みになるものと考えております。ご来校の折には練習をご覧頂き、叱咤激励頂ければ部員一同一層の励みになるものと存じます。



# 野球部

野球部部长

西 森 昌 身

(昭34年電通卒)

随分以前から、母校に野球部を復活させてはどうか、という話が同窓生の皆さんからも聞かされて来ていました、そんな中で一昨年の四月、監督の経験のあられる植田豊年先生が本校機械科へ転入されて来られまして、一躍野球部復活の機運が高まり、今年四月に県下高校四十校のうち、野球部をもつ二十二校の一枚に加わり復活いたしました。

一口に野球部が出来たと言っても、なかなか大変な事です。まず、活動するための施設設備と用具が必要で、グラウンドの整備をはじめ、バッティングマシン・ネット類・ヘルメット・バットやボール等々現在まで約二百万円程の費用を費やしています。

先達って、不慮の交通事故により他界されました北川和雄氏を中心に今年六月、野球部後援会発起人会が結成されまして、同窓生並びに地域の方々のご支援をうたえましたところ、部員の父母のご協力にもよりました、八百名余りの方々から約百八十万円位の心暖まるご支援の寄付金をいただくことが出来ました。この八百名余りの方々の中には、同窓会長はじめ各地の同窓生のご協力ご支援があり、特に同窓会高知支部では組織的なご協力をいただきましたし、須崎地区の同窓生有志の方々からも多くのこ

支援をうけました。

復活したとは言え、今年は野球部一年生です。小学校一年生のようにランドセルに白い服、机も持ち



ました。でも二年生、三年生となるにつれ、身体も大きくなり、本やノート、エンピツなどもたくさん必要になります。

同窓生のみなさん、野球部も学校全体の理解と協力を得ながら本校の歴史と伝統をより一層発展させる一翼を担わんと、監督、部員一丸となって毎日練習に励んでいます。ご声援下さい。

去る九月九日、北川和雄氏を会長とする後援会組織が出来上がりましたが、でもその二日後に会長が亡くなられ、以後再組織出来ていません。しかし、この会報が皆さんの手元に届かれる頃には後援会長も決まり組織は出来ていると思います。

本後援会の目的は、「高校野球の本義を理解し、須崎工業高校の教育方針に即し、野球部の健全な発展を援助し、会員相互の親睦を深める」とあります。

同窓生の皆さん、どうかこの後援会にご理解をいただき、絶大なご支援ご援助をお願いいたします。

私事、三十四年の電通卒業ですが、とにかく野球部長として全くの新米ですので、みなさんのご指導とご鞭撻をお願いし、併せてご意見もお聞かせ下さいますよう、お願いいたします。



# 昭和54年度決算報告書

55. 3. 31

	費 目	金 額(円)	摘 要	
収入の部	前年度繰越金	402,691		
	入 会 金	446,000		
	年 会 費	34,500		
	協 力 金	41,500		
	特別会計利息	179,604		
	雑 収 入	21,121		
		1,125,416		
支出の部	会 議 費	31,750	理 事 会	
	事 業 費	577,800	開校記念品代	71,000
			会報発行費印刷	250,000
			封筒代	18,000
			送 料	198,800
			振替用紙印刷代	16,000
			24,000	調 査 費
	通 信 交 通 費	16,900	切 手 代	
	事 務 消 耗 品 費	3,854	コ ピ ー 代	
	慶 弔 費	55,635	卒 業 生 丸 筒、支 部 総 会 祝、他	
支 部 配 分 金	70,000	關 東 13,600、中 京 5,000、近 畿 17,400 高 知 22,000、須 崎 12,000		
雑 費	41,000	振 替 払 込 料 ほか		
	760,039			
	$\begin{array}{r} \text{収 入} \\ 1,125,416 \\ - \text{支 出} \\ 760,039 \\ \hline \text{残} \\ 365,377 \end{array}$			
〈 特 別 会 計 〉				
終身会費	費 目	金 額	摘 要	
	前年度末積立額	5,351,454	定 期 預 金	
	本年度納入額	1,780,000	預 現 金 1,710,000 70,000	
	計	7,131,454		

## 昭和54年度会計事務について

諸帳簿及び証書類等により監査の結果金額その他については相違なく、預金通帳・定期預金証書とも確実に管理施行されている。

昭和55年 3月31日

監 査 北 川 和 雄  
" 下 元 征 夫



## 昭 和 55 年 度 予 算

費 目		金 額	摘 要	
収 入 の 部	前年度繰越金	365,377		
	入 会 金	414,000	207名×2,000円 (55年度)	
	年 会 費	50,000		
	協 力 金	50,000		
	特別会計利息	242,086	四銀 26,250 農協 215,836	
	雑 収 入	2,000		
	計	1,123,463		
支 出 の 部	会 議 費	50,000	理 事 会 そ の 他	
	事 業 費	773,000	①開校記念品費	140,000
			②会報発行費	
			印刷製本代	300,000
			封筒代	20,000
			送料	240,000
			振替印刷	16,000
			③調査費	15,500
			④予備費	41,500
	通信交通費	50,000	切手代・通信費・旅費その他	
	事務消耗品費	30,000	用紙代・コピー代その他	
慶 弔 費	60,000	卒業祝丸筒・その他		
支 部 配 分 金	104,400	関東13,000、中京 8,600、近畿20,000 高知32,600、須崎30,200		
雑 費	10,000			
予 備 費	46,063			
計	1,123,463			
〈 特 別 会 計 〉				
終 身 会 費	費 目	金 額	摘 要	
	前年度末積立額	7,131,454	定 期 預 金	
	本年度納入目標額	2,000,000		
	計	9,131,454		

# 本年度事業報告

五月二十五日 開校記念品(校名入りタオル)を在校生に配りました。

十月三十日 会報第五号を発行予定。

## 会報の発送について

会報は本人宛と職域宛に分けて発送しています。職域は世話人(幹事さん)の方々の大へんなお骨折りをいただき有難うございます。

こゝで皆様方をお願いしたいのは会報が二百通余り返送されて来ます。事務局としましては再送のできるものは再送していますが、転居先不明、宛名不十分(番地・棟番号洩れ等)、新任所で記載のことはどちらで何とも手の打ちようがないので、住所変更のときはお手数ですが、是非ご連絡下さいませ。お願い致します。



## 各種証明書の発行について

(母校事務室からの伝言)

証明書が必要なときは、法令の定めにより証明書交付申請書別紙(用紙は事務室に備付)を校長宛提出しなければなりません。(第二号十八頁の様式)申請書には必要事項記入のうえ押印し左記金額に相当する高知県収入証紙を貼付してください。遠隔地からの申込みは事務手続に相当の日数を要しますので早目に申込みをしてください。又県外には高知県収入証紙は販売していませんので、切手、又は現金を同封してください。

なお返信用の封筒には切手の貼付、住所、氏名、郵便番号をお忘れなくご記入下さい。

### 手数料は次のとおりです

- 卒業証明書 一通につき一五〇円
- 成績証明書 一通につき一五〇円
- 単位修得証明書 一通につき一五〇円

送り先〒785須崎市多の郷和佐田甲四一六七ノ三

高知県立須崎工業高等学校事務室  
電話(〇八八九四)②一八六一

②一八六一

証明書の件につき不都合または不明な点等がありましたらいつでも右記電話番号の証明係までお電話ください。

## 編集後記

各支部の役員ならびに会員の皆様、原稿をお願いしましたところ、御多忙中にもかかわらず寄稿くださいまして厚く御礼申し上げます。

お蔭様でここに第五号の会報が発行できることになりましたこと皆様と共に喜びたいと思います。

今回は(須工元教諭)大田幸吉先生よりご寄稿下さいました。母校の昔をしのぶ機会を与えて下さりましたことを感謝したいと思います。

事務局では会員の皆さんから、「会報の発行はまだか」といつて楽しみにして貰える様な内容のものにしたいと努力すべく考えておりますのでよろしくお願い致します。

今後も皆様の近況や、ご感想、お気付の点など遠慮なくどしどしお寄せ下さいませ。

印刷にあたりましては須崎市の笹岡印刷所さんに大変お世話様になりました。厚くお礼申し上げます。

事務局 編集委員

昭和五十五年十一月一日発行

発行所 高知県立須崎工業高等学校

同窓会事務局

会長 清家 寛

印刷所 高知県須崎市東古市町二番十六号  
有限会社 笹岡印刷所

## 追悼

昭和二十六年三月機械科卒業の北川和雄氏は、去る九月十一日不慮の事故で他界されました。

北川氏は大阪セメント須崎工場に永年勤務され工務部係長として活躍される傍、地域社会のお世話も何かとされ、また同窓会本部常任理事、須崎支部副支部長として、永年に亘り同窓会活動に貢献されました。

また昨年母校野球部の発足に伴い、野球部後援会会長に推され今後の活躍が期待されていました。

この度思いかけない交通事故のため不帰の客となられましたことは誠に惜しみて余りある限りでございます。

本紙上をお借りして、会員の皆さんにお知らせしますと共に、北川さんの御冥福を心から御祈り申し上げます。

昭和五十五年九月三十日

同窓会長 清家 寛

事務局長 島崎 良一

同窓会 六日 東京

# 終身会費納入者名

昭和五十五年十月十六日現在

昭和十八年  
 中平 万年 田邊 博造 橋本 忠行 矢野 龜雄 西川 嘉明 木下 善二郎 坂本 忠男 田村 耕吉 田村 昌孝 高橋 昌嚴 中岡 当明 廣田 四郎 清家 寛一 長山 象一 山田 幸樹 山田 弘市 海地 滯幸 前田 托造

廣瀬 兼男 横島 元幸 宮本 清 國広 慶助 小松 章洋 井口 治郎 梅原 治務 中越 青行 池藤 良徳 池上 萬徳 片岡 孝人 浜田 善三 堅田 遠雄 片岡 弥太郎 浜口 義夫 甲藤 茂夫 張 泗海 近森 和夫 片岡 命長 田所 定夫 吉岡 豊延 廣瀬 孔建 梅原 康一 岩山 安成 山崎 義成

大野 純輔 北添 健児 寺田 郁雄 吉村 功雄 松沢 真三 山田 眞豊 大川内 嚴 柏井 秀有 龜山 和夫 小谷 浩三 渋谷 邦治 笹岡 勲 刈谷 雅幸 戸梶 茂富 森下 桂郎 中平 德喜 大崎 栄郎 楠本 正昭 島崎 馨樹 山谷 芳樹 岡崎 正毅 岡崎 範夫 森下 春茂

昭和二十一年

昭和二十二年  
 大藤 益富 島崎 良一 高橋 繁徳 川村 義隆 古谷 義幸 片田 彰夫 谷口 和夫 武内 徳雄 下村 昇 奥代 重恭 奥本 静夫 吉本 静夫 野瀬 一勇 竹内 正一 島崎 茂 岡田 信雄 吉村 春政 吉川 貞造 市川 泰輔 和田 富夫 和田 縣市 北川 良輔 鍋島 惟孝 竹村 典和 谷武 雄

昭和二十三年

昭和二十五年  
 上岡 親雄 傍土 忠義 王子 和雄 古谷 正一 藤本 幸造 楠瀬 富万 竹内 良一 高岡 正幸 横田 雅範 福永 徳七郎 西森 徳七郎 矢野 定志 津野 秀男 米女 東作 武石 英男 横山 三郎 横山 三郎 西田 浩造 森岡 浩清 横田 晴光 秋沢 英男 池沢 遠水 北川 万水 西内 静幸 大崎 静幸 浜田 惣助 近森 久重

昭和二十六年

昭和二十七年  
 上田 察生 大野 幹雄 高野 寿恵広 長山 貞雄 武政 良男 汲田 正一 森岡 淳 岡田 恵一 山崎 拓雄 塚本 彦 多田 彦 汲田 信男 福岡 昭七 森田 泰弘 井上 健弘 堀見 和三 川村 忠孝 中嶋 孝良 三本 正勝 藤田 昭七郎 (山田) 伊藤 孝由 田上 圭助 津野 嘉三 斧山 光男

昭和二十八年

昭和二十九年

田村志津夫  
岡林幸保  
梅原弘志  
横川寛水  
市川昌男

田村泰雄  
田村武夫  
若瀬竜雄  
中川聖徳  
中川秀市  
竹下哲男  
古味忠孝  
上田智明  
橋本盛幸  
北村盛幸

中野義明  
吉村正策  
長信仁  
上田善右  
武政博明  
野並充温  
矢野保照  
江野俊明  
上田浩俱  
高野照男  
西森行雄

昭和三十一年

渡辺憲太郎

正延善彦  
奥田光男  
川淵芳秀

藤田国基  
谷瀨芳雄  
吉田遊亀  
島中光一  
三浦裕礼  
浮田国広  
宮本恵美子  
小野邦夫  
高橋英雄  
浜口正憲  
安井壮三

昭和三十三年

高橋三雄  
植田幸子  
松村隆司  
中西安男

植村豊樹  
塩見崇敬  
窪田邦彦  
松下留吉  
三宅世起

昭和三十三年

二見政雄  
大崎光春  
二宮安雄  
三本和男

(山本)  
松村朱美  
在木忠正  
宮崎英雄

福井繁次  
弘田貞夫  
斎藤祐一  
矢野親一郎  
小原博信  
岩本和子  
梅原道夫

山崎吉広  
竹村元宏  
西村仁利  
田村勉弘  
沖本隆毅  
堅田隆幸  
弘松章志

氏原和弘  
西森寿彦  
下元征夫  
西森昌身

昭和三十三年

武森幸利  
高橋昭之  
中平俊郎  
竹崎伸一  
鎌倉敏彰

横田雅敏  
西森研策  
中平泰弘  
增田泰浩  
市原靖彦

吉村淳一  
尾崎亘宏  
中川栄一郎

昭和三十三年

刈谷茂正  
山崎康夫  
大原政消  
鎌倉政消  
小室貞夫  
高橋貞夫  
渡辺寿彦  
津野昌彦  
山中重利  
山本重利  
竹村精史  
中平憲英

村上正博  
村上義栄  
島津公夫  
清水繁雄  
岡崎伸高  
上岡利夫  
西森樞夫  
江口文夫  
下川文夫  
千頭且典  
田村賢児

藤田和明  
竹崎耕作  
田村義幸  
田村一利

昭和三十三年

竹内正英  
光原直己  
植田寿一  
福井通男  
上野一男  
梅下弘育  
野瀬皓二  
友永昭三  
土本豊  
島崎武男

山本勝喜  
荻部幸子  
井上耿介  
小島康弘  
岡林敏雄  
西川政子

大崎豊明  
久川章  
前野秀忠  
片岡正利  
浜崎滴良  
高橋哲夫  
内岡肇  
前田文雄  
新田和男

昭和四十年

(芝)

石黒明洋  
崎山弘太郎

昭和四十一年

津野 陸

木村 正雄

正木 長生

渡辺 正俊

長谷部 俊夫

池田 遠雄

玉川 良一

岡林 隆

西森 英夫

笹本 充範

在木 勇

昭和四十二年

竹内 正男

田村 正志

邑田 善之

下八川 哲三

小松 義治

田村 正司

岡村 正雄

昭和四十三年

竹崎 貞男

池田 収一

佐竹 節男

西森 広利

下元 栄治  
高木 良介  
山下 博

山崎 莊一郎

谷岡 直三

昭和三十四年

西森 房司

下元 彰

松浦 育男

昭和三十五年

下谷 吉和

昭和三十六年

片岡 福彦

岡本 直美

中屋 保

箭野 文明

山崎 敏夫

昭和三十七年

藤原 喜久男

佐々木 義信

小野 豊

昭和三十八年

小田原 孝幸

和田 拓夫

西山 庸一

堅田 壽幸  
広瀬 健三  
出来 宏幸

昭和三十九年

林 順一郎

森田 賢一

中井 富士夫

石元 正士

浜田 信男

森下 章博

昭和三十九年

中野 友喜

中城 鉄夫

篠原 晴夫

田村 正

昭和三十九年

大崎 昌則

岡 知秀

岡田 益穂

川上 徳男

西村 嘉泰

宮脇 潤正

谷岡 孝也

西村 豪

松本 晃

柳瀬 幸宏  
川村 健次  
下元 喜行

高橋 新市

西森 新市

松岡 貴也

丸岡 俊一

石川 早男

中屋 忠

西村 信之

浜口 順一

田部 伸彦

大崎 孝広

小野 三千雄

小野川 浩史

新改 一富

西田 大喜夫

森光 輝夫

山下 一夫

市原 正浩

岡田 郁夫

小幡 啓亮

遠山 正司

中山 安亀

山岸 孝益

山下 任陽

藤田 友二

橋田 哲臣

海地 篤男

橋田 春男

池田 幸夫

昭和三十九年

川村 公孝

池田 和正

関本 泰平

土本 雅人

永原 正一郎

山中 憲一

吉岡 利尚

久万 道夫

嶋崎 富三男

明神 直昭

井上 直浩

川村 喜一郎

北沢 文広

国沢 成雄

野島 勝行

浜田 清志

政岡 清志

山崎 浩一

吉本 一仁

山中 栄

高嶋 覚

藤岡 大成

式地 秀明

藤田 英男

片山 幸広

山中 光典

北添 俊広

中野 俊彦  
中沢 和明  
森崎 淳二

桑原 真一

松本 健次

山崎 晋司

大野 孝雄

大崎 広明

坂井 民夫

川上 正雄

林 稻男

細木 稻男

岡添 慎一

宮地 亮佐

種田 裕二

北添 裕生

山崎 裕明

岡田 知久

片岡 広明

堅田 裕一

田中 正博

山本 義仁

足達 昭一

片岡 幸彦

宮谷 文雄

安並 明宏

浜田 壮介

門田 幸久

小野山 慎一

西本 照

大嶋間斧長海中岡高高山堅明福芝南明津広橋朝久奥高楠明松又川岡山  
崎崎嶋山山治原本橋崎田神井部洋正野畑詔日岡田橋瀬神本川西崎添  
幸勉久喬彦男雄之平清二也人喜稔文修幸学年男久望聡和裕二仁夫二文広

井山口山松高森高浜岡吉西竹西大江奥保片岡山森岡乾柏市岡浜尾浜岡  
上本尾橋光橋田村川林岡崎崎木岡山崎光林幸井川村賢正保崎口崎  
健矢澄志助雄滑次徹修友雄明一功秀利也児宏利出幸一助郎作人雄司明

昭和五十四年

大崎賢二 今橋秀広 安藤輝美 朝比奈祐介 田中健喜 山崎幸稔 岡林治修 三井明彰 渡辺明彰 田中隆弘 市川三三 竹内三三 隅田久善 田所直人 谷脇俊光 馬場宣光 馬場宣光 山崎敏幸 佐々木敏幸 宮崎さよ 片岡孝憲 武内秀樹 弘田耕一 小松和弘 山添勇一 浜田勝章 矢野勝俊 大原祐二

鍋島一弘 中村由紀夫 長門重浩 田上叔伯 柴崎信一 川沢のり子 門田英二 堅田和博 梅原俊男 井上健一 市川敦志 吉本忠則 森光浩明 森下浩明 宮崎秀徳 松浦栄彦 広瀬永正 林弘茂 林智一 浜口芳文 間部雄二 南弘和 徳家明良 道家保次 田辺金造 佐竹義敦 佐竹利也 坂本定浩 大原英二

浜田俊彦 中城隆男 戸梶浩伸 津野光一 谷脇久一 高橋信好 高橋強 坂本博 片岡晴登 尾崎浩助 奥崎信夫 大川内稔 戎井良裕 梅原弘 梅原弘 馬詰博司 植田正徳 植田孝成 島崎剛 山崎正広 山崎須賀男 森光志郎 松元謙二 広瀬文一 林尊伸 林典久 橋田文一 西村文広 西森幸二

北村幸浩 堅野利耕 小野一宏 大野則彦 衣斐生 上山義文 矢野宝宏 森光隆浩 松田繁弘 西地弘行 長山弘雄 中野孝徳 中岡朗司 辻本真行 田村信良 谷中久良 高橋利男 笹岡幹通 桑瀬正通 小田啓二 岡本良浩 吉本仁晃 横山秀晃 山岡立憲 宮地勝由 松本充勝 前田由利 堀川修一 林美利

山柳西中中田田竹高佐堅岡石吉森明松松西長長中田谷竹須芝笹  
川本元村谷村中内橋藤田本田田典智一孝俊定山山田部内内崎岡  
心孝澄智一行彦登美夫優志也光弘久欣彦郎市男浩基文造久弥昭寅二男  
一広秀夫行彦夫優志也光弘久欣彦郎市男浩基文造久弥昭寅二男

森宮溝松松広浜浜野能西西長中辻近谷高高柴三酒甲尾大伊井麻青青  
田脇瀨坂浦瀬田崎島見森森山山安沢臨野橋宮井藤崎崎藤廣直正富木木  
一靖健功伸幸幸一夫敏柴消博治誠茂得友仁夫夫唯広則章明信彦彦幸道志雄二  
宏一郎夫二人男一夫生志章夫誠茂得友仁夫夫唯広則章明信彦彦幸道志雄二

矢山山森森松野能西西西梨長中辻高高高下佐桑国刈片冲大吉渡山山  
野本崎岡田島見村森森山山勝隆浩秀正淳義原沢谷岡博崎岡真佐敏重  
明雄彦夫一樹次至典忠幸春勇利裕二一充史暗智悟彦祐守稔人幸光保  
陸光孝順英慶圭佳正德千春勇利裕二一充史暗智悟彦祐守稔人幸光保

大大市八森松松松藤中黒織小大山山山森溝弘西西高下植今石渡横矢  
崎崎川木下本田浦本内原田田川脇下岡 瀨 建富寿公祐秀夫幸高良博英二  
始一男介仁広久彦修知彦藏志豊司司人裕志成亀一司夫幸高良博英二

久浜中中津門会大岩山山細久浜浜橋中田竹竹坂酒近楠木片尾岡岡大  
原田脇平野野所崎佐下崎川岡岡田田田山村田内本井藤藤目下岡崎村野  
三光兄孝一辰男一弘己久井善俊典明至彦一信卓隆昭滴二幸喜男明造  
生啓志昇司昭男一弘己久井善俊典明至彦一信卓隆昭滴二幸喜男明造

明 壬  
神 生  
良 一  
房 光